



血栓の働きと血栓症

血管を詰まらせる仕組み

血栓はどのような働きをするか知っていますか。血栓には血を止める重要な役割があり、体を出血から守っています。血管が破れると、血液内の成分が集まって血液の塊になり出血箇所に栓をすることで血が止まります。この栓が

血栓です。血管の傷が治ると血栓を溶かす血液内の成分が働いて、血栓は溶けます。血栓が出来ないと出血が止まらず、命に関わることもあります。

一方で、血栓は、血管を詰まらせる血栓症の原因です。代表的な病気に脳梗塞や心筋梗塞、狭心症、深部静脈血栓症や肺塞栓症があります。これらの血栓症はわが国の死因の上位を占めており、血栓症は動脈硬化や血液のよどみと関係が強いことが分かっています。血栓症の危険性は、不規則な食生活、食べ過ぎ、塩

分摂取過多、喫煙、多量飲酒、運動不足などの生活習慣が原因で起こる高血圧、糖尿病、高コレステロール血症、肥満などの生活習慣病により高まります。さらに、夏場には、脱水症にも注意が必要です。

血栓症がいったん起きると緊急の治療を必要とする場合が多く、早期治療ほど効果が期待できます。再発は、危険因子をコントロールしながら抗血栓薬を内服することで防ぎます。抗血栓薬はよく「血液サラサラの薬」と表現され、血栓症を予防するにはよい薬ですが、少ないながら出血が起きることがあるので注意しましょう。特に血圧が高いと脳出血の危険性が高まります。高血圧があればしっかりと血圧を管理しましょう。